

「物流・ロジスティクス分野における
労働力不足問題と生産性の向上に向けて」
(JILS総研レポート Vol. 4)に係る
Webアンケート調査結果

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
JILS総合研究所

2017年12月

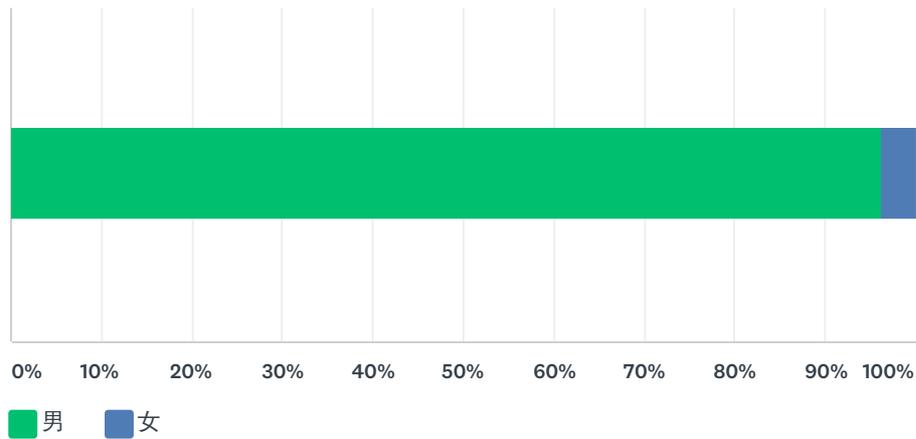
Q1 お名前と電子メールアドレスをご記入ください。

回答数 : 198 スキップ数 : 17

回答数 : 198

Q2 性別について、選択してください。

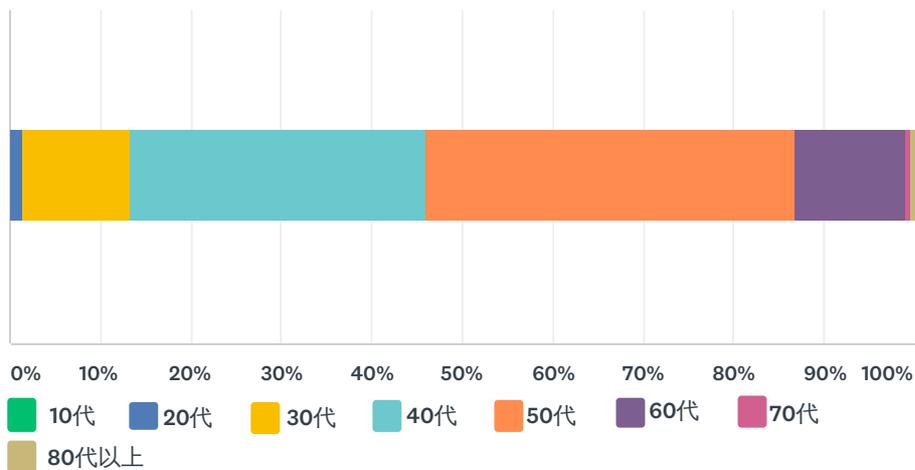
回答数：210 スキップ数：5



回答の選択肢	回答数	
男	96.19%	202
女	3.81%	8
合計		210

Q3 年齢層について、選択してください。

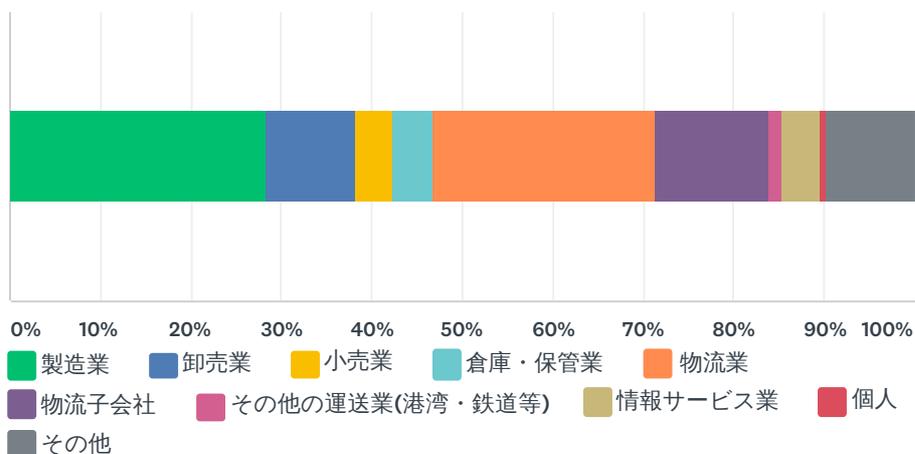
回答数：211 スキップ数：4



回答の選択肢	回答数	割合
10代	0	0.00%
20代	3	1.42%
30代	25	11.85%
40代	69	32.70%
50代	86	40.76%
60代	26	12.32%
70代	1	0.47%
80代以上	1	0.47%
合計	211	

Q4 業種区分について、複数に該当するときは代表的なもの1つを選択してください。

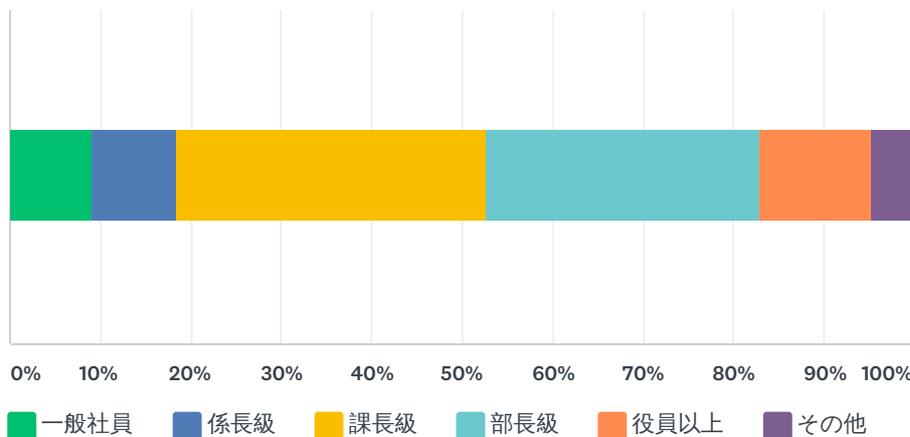
回答数：212 スキップ数：3



回答の選択肢	回答数	割合 (%)
製造業	60	28.30%
卸売業	21	9.91%
小売業	9	4.25%
倉庫・保管業	9	4.25%
物流業	52	24.53%
物流子会社	27	12.74%
その他の運送業(港湾・鉄道等)	3	1.42%
情報サービス業	9	4.25%
個人	1	0.47%
その他	21	9.91%
合計	212	

Q5 あなたの職位について、該当する番号を選択してください。

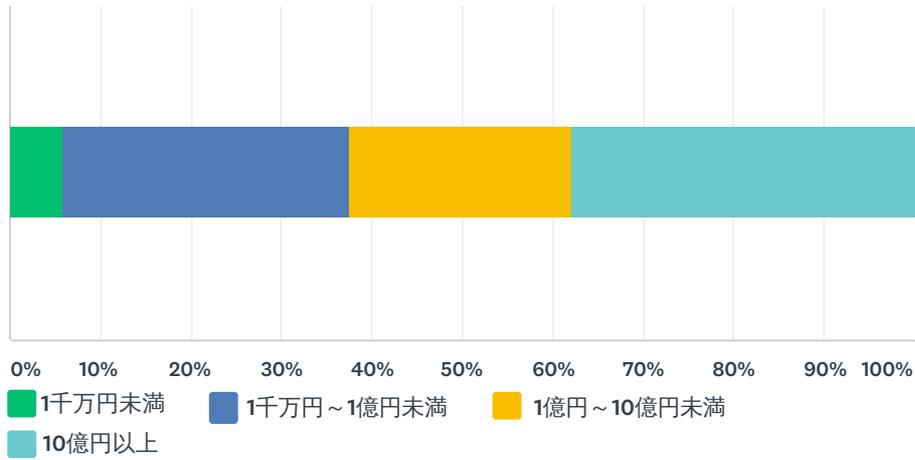
回答数：211 スキップ数：4



回答の選択肢	回答数	割合
一般社員	19	9.00%
係長級	20	9.48%
課長級	72	34.12%
部長級	64	30.33%
役員以上	26	12.32%
その他	10	4.74%
合計	211	

Q6 あなたの所属する会社の資本金について、該当する番号を選択してください。

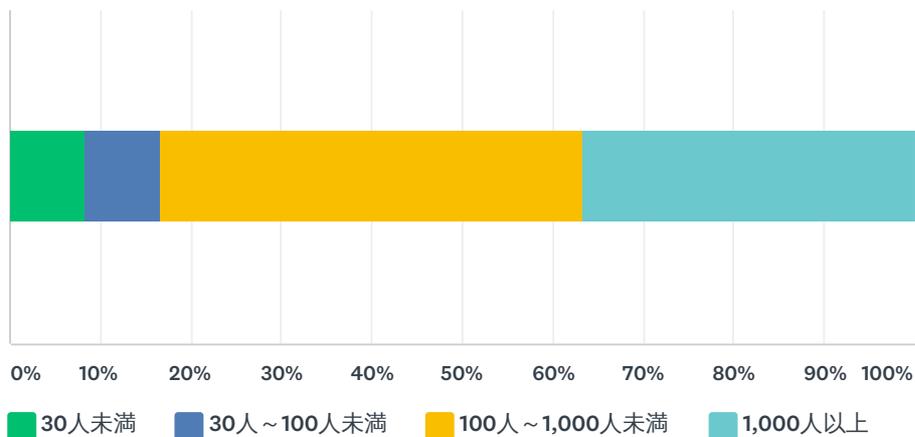
回答数：208 スキップ数：7



回答の選択肢	回答数
1千万円未満	12
1千万円~1億円未満	66
1億円~10億円未満	51
10億円以上	79
合計	208

Q7 あなたの所属する会社の従業員数について、該当する番号を選択してください。

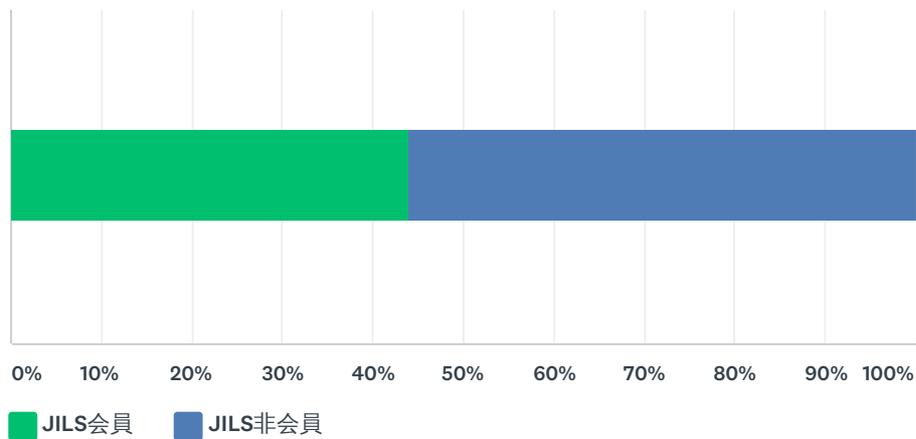
回答数：209 スキップ数：6



回答の選択肢	回答数	割合
30人未満	17	8.13%
30人~100人未満	18	8.61%
100人~1,000人未満	97	46.41%
1,000人以上	77	36.84%
合計	209	

Q8 JILS会員の種別について、選択してください。

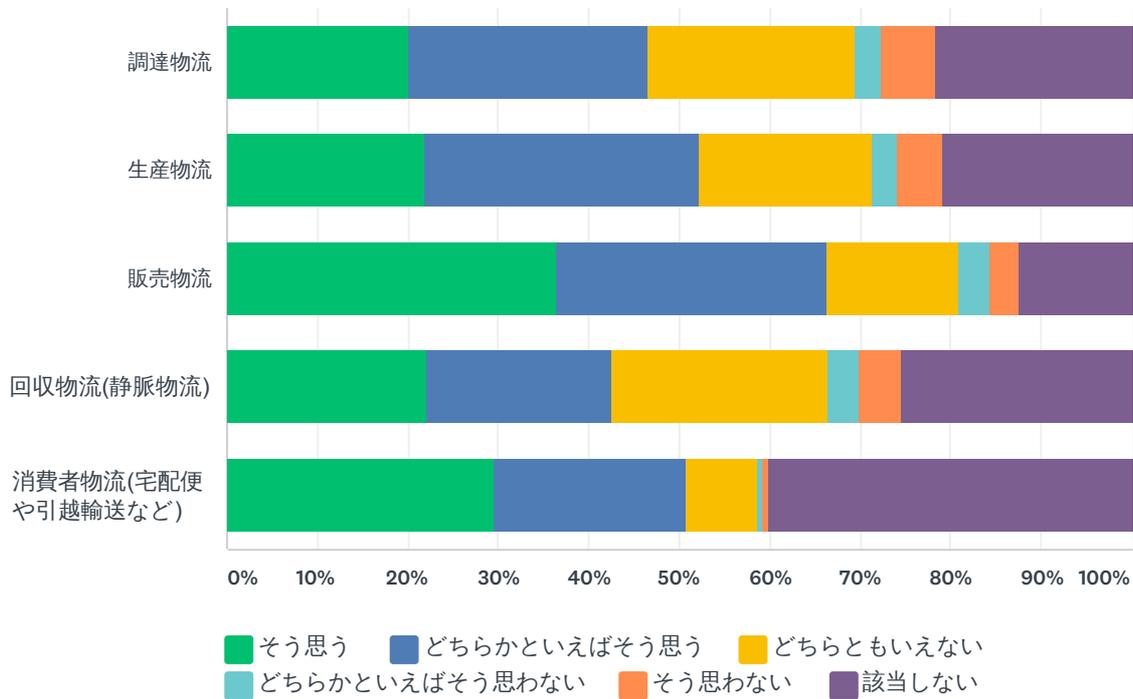
回答数：211 スキップ数：4



回答の選択肢	回答数	割合
JILS会員	93	44.08%
JILS非会員	118	55.92%
合計	211	

Q9 あなたの会社の以下の物流領域では、労働力不足問題が生じていますか。

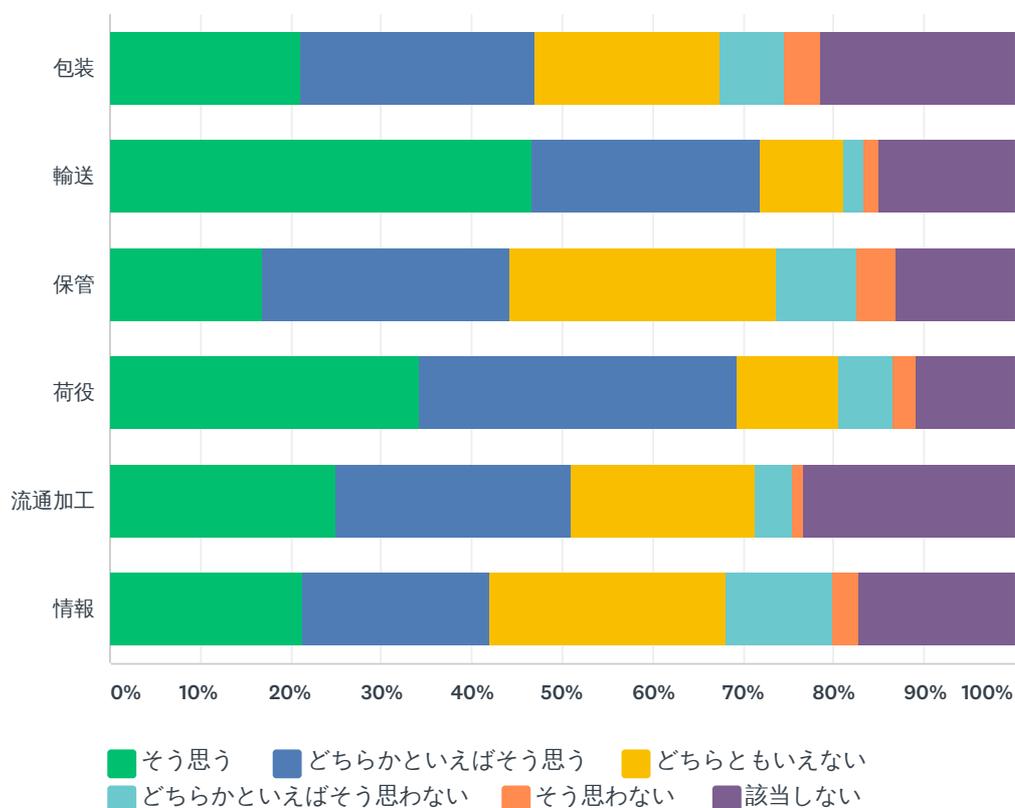
回答数：187 スキップ数：28



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計
調達物流	20.00% 36	26.67% 48	22.78% 41	2.78% 5	6.11% 11	21.67% 39	180
生産物流	21.91% 39	30.34% 54	19.10% 34	2.81% 5	5.06% 9	20.79% 37	178
販売物流	36.41% 67	29.89% 55	14.67% 27	3.26% 6	3.26% 6	12.50% 23	184
回収物流(静脈物流)	22.16% 39	20.45% 36	23.86% 42	3.41% 6	4.55% 8	25.57% 45	176
消費者物流(宅配便や引越輸送など)	29.61% 53	21.23% 38	7.82% 14	0.56% 1	0.56% 1	40.22% 72	179

Q10 あなたの会社の以下の物流機能では、労働力不足問題が生じていますか。

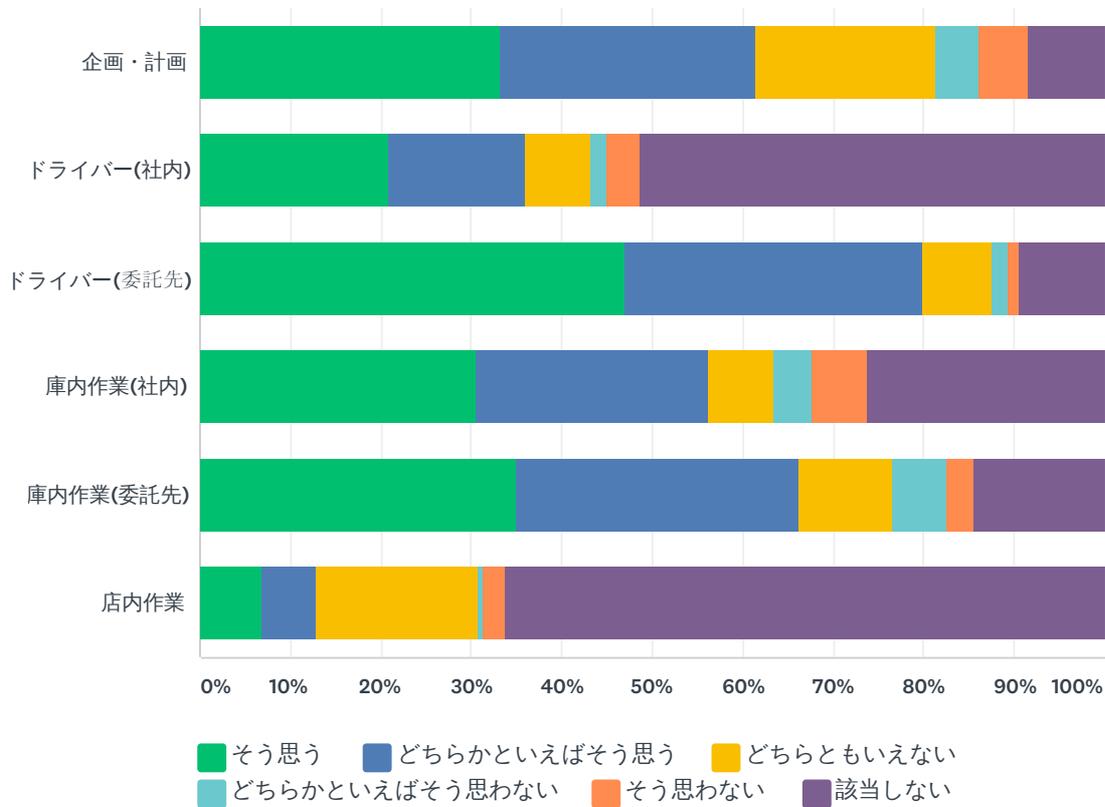
回答数：187 スキップ数：28



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計
包装	20.99% 38	25.97% 47	20.44% 37	7.18% 13	3.87% 7	21.55% 39	181
輸送	46.49% 86	25.41% 47	9.19% 17	2.16% 4	1.62% 3	15.14% 28	185
保管	16.94% 31	27.32% 50	29.51% 54	8.74% 16	4.37% 8	13.11% 24	183
荷役	34.05% 63	35.14% 65	11.35% 21	5.95% 11	2.70% 5	10.81% 20	185
流通加工	25.00% 46	26.09% 48	20.11% 37	4.35% 8	1.09% 2	23.37% 43	184
情報	21.23% 38	20.67% 37	26.26% 47	11.73% 21	2.79% 5	17.32% 31	179

Q11 あなたの会社の物流を持続的なものにするために、以下の職種の労働力は不足していると思いますか。

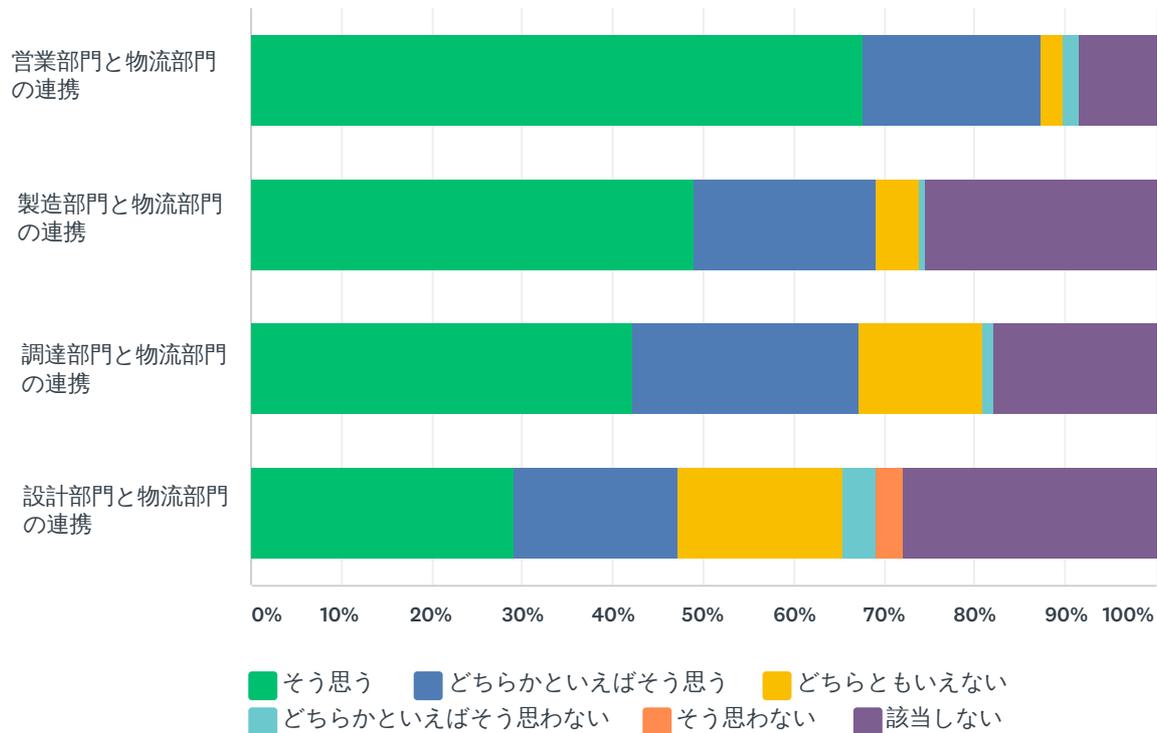
回答数： 171 スキップ数： 44



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計	加重平均
企画・計画	33.13% 55	28.31% 47	19.88% 33	4.82% 8	5.42% 9	8.43% 14	166	2.46
ドライバー(社内)	20.96% 35	14.97% 25	7.19% 12	1.80% 3	3.59% 6	51.50% 86	167	4.07
ドライバー(委託先)	47.06% 80	32.94% 56	7.65% 13	1.76% 3	1.18% 2	9.41% 16	170	2.05
庫内作業(社内)	30.54% 51	25.75% 43	7.19% 12	4.19% 7	5.99% 10	26.35% 44	167	3.08
庫内作業(委託先)	34.94% 58	31.33% 52	10.24% 17	6.02% 10	3.01% 5	14.46% 24	166	2.54
店内作業	6.75% 11	6.13% 10	17.79% 29	0.61% 1	2.45% 4	66.26% 108	163	4.85

Q12 あなたの会社の物流を持続的なものにするために、以下の社内連携の取組が必要になると思いますか。

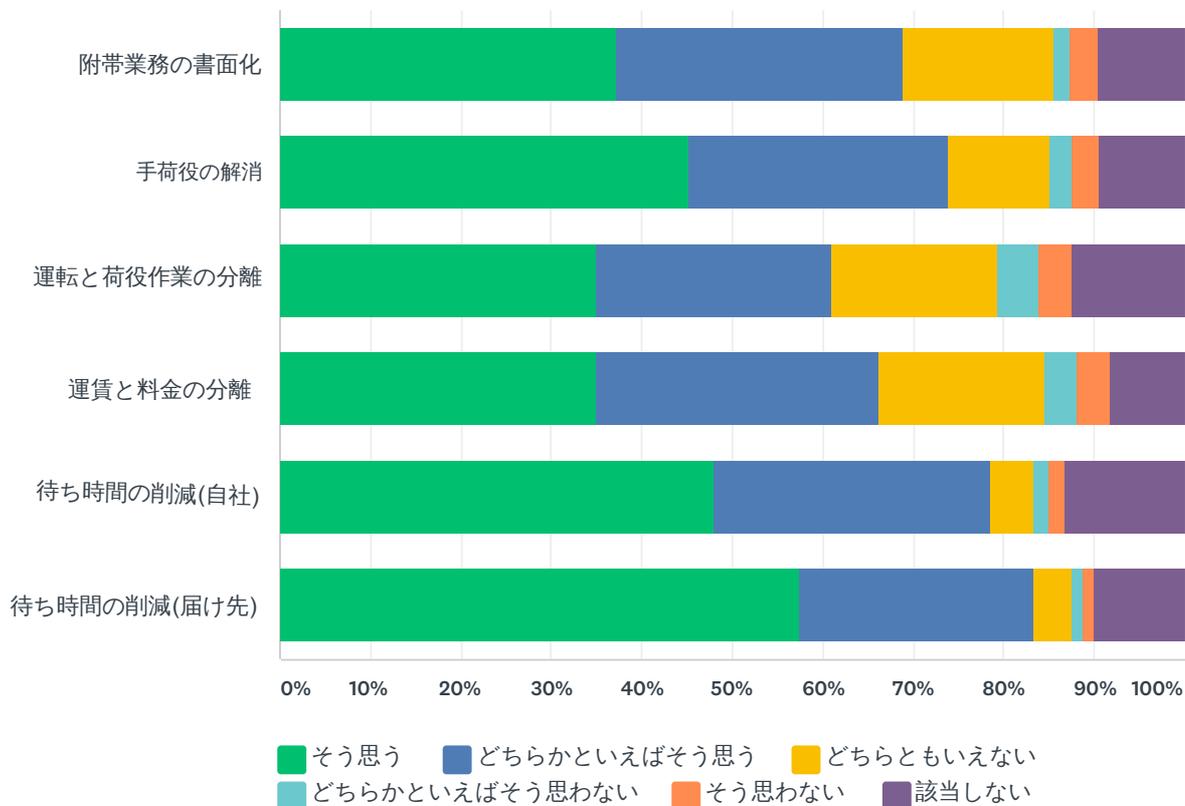
回答数：169 スキップ数：46



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計	加重平均
営業部門と物流部門の連携	67.66% 113	19.76% 33	2.40% 4	1.80% 3	0.00% 0	8.38% 14	167	1.72
製造部門と物流部門の連携	49.09% 81	20.00% 33	4.85% 8	0.61% 1	0.00% 0	25.45% 42	165	2.59
調達部門と物流部門の連携	42.26% 71	25.00% 42	13.69% 23	1.19% 2	0.00% 0	17.86% 30	168	2.45
設計部門と物流部門の連携	29.09% 48	18.18% 30	18.18% 30	3.64% 6	3.03% 5	27.88% 46	165	3.17

Q13 あなたの会社の物流を持続的なものにするために、以下の荷主企業と物流企業の連携の取組が必要になっていると思いますか。

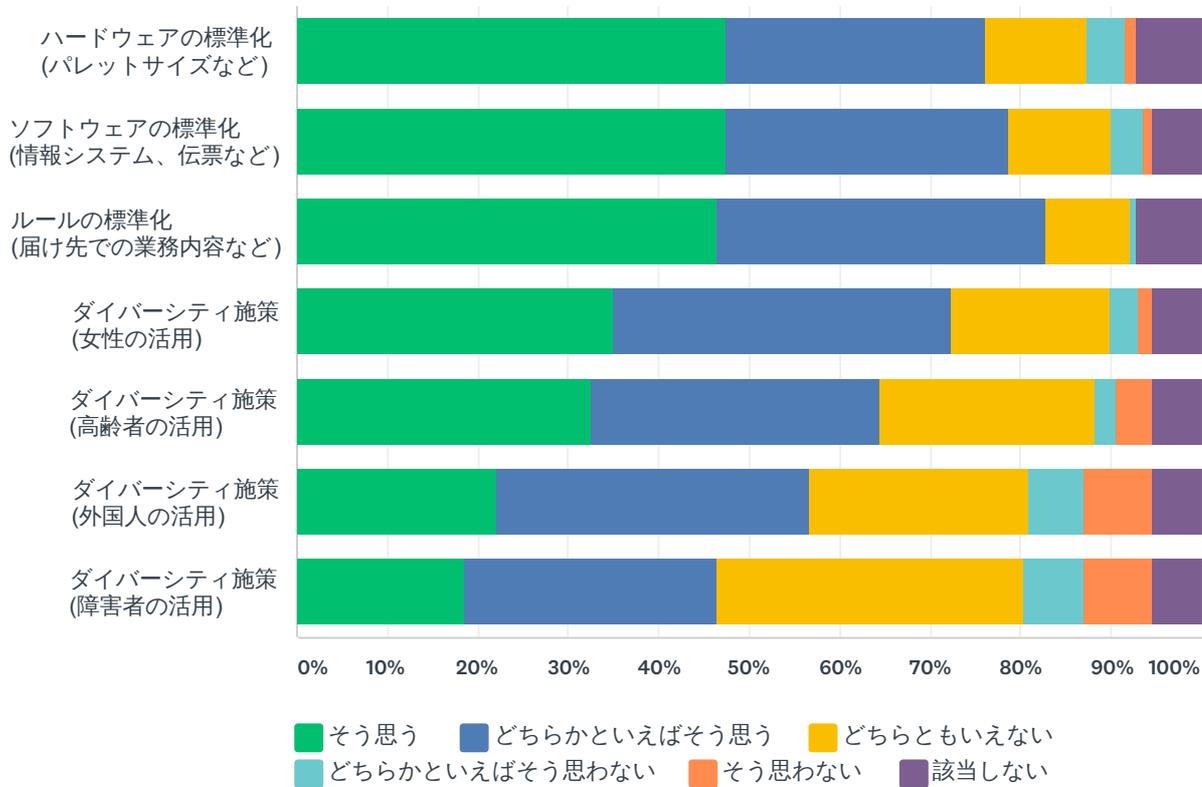
回答数： 169 スキップ数： 46



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計	加重平均
附帯業務の書面化	37.13% 62	31.74% 53	16.77% 28	1.80% 3	2.99% 5	9.58% 16	167	2.31
手荷役の解消	45.24% 76	28.57% 48	11.31% 19	2.38% 4	2.98% 5	9.52% 16	168	2.18
運転と荷役作業の分離	34.91% 59	26.04% 44	18.34% 31	4.73% 8	3.55% 6	12.43% 21	169	2.53
運賃と料金の分離	34.91% 59	31.36% 53	18.34% 31	3.55% 6	3.55% 6	8.28% 14	169	2.34
待ち時間の削減(自社)	47.90% 80	30.54% 51	4.79% 8	1.80% 3	1.80% 3	13.17% 22	167	2.19
待ち時間の削減(届け先)	57.40% 97	26.04% 44	4.14% 7	1.18% 2	1.18% 2	10.06% 17	169	1.93

Q14 あなたの会社の物流を持続的なものにするために、以下の業界全体での取組が必要になっていると思いますか。

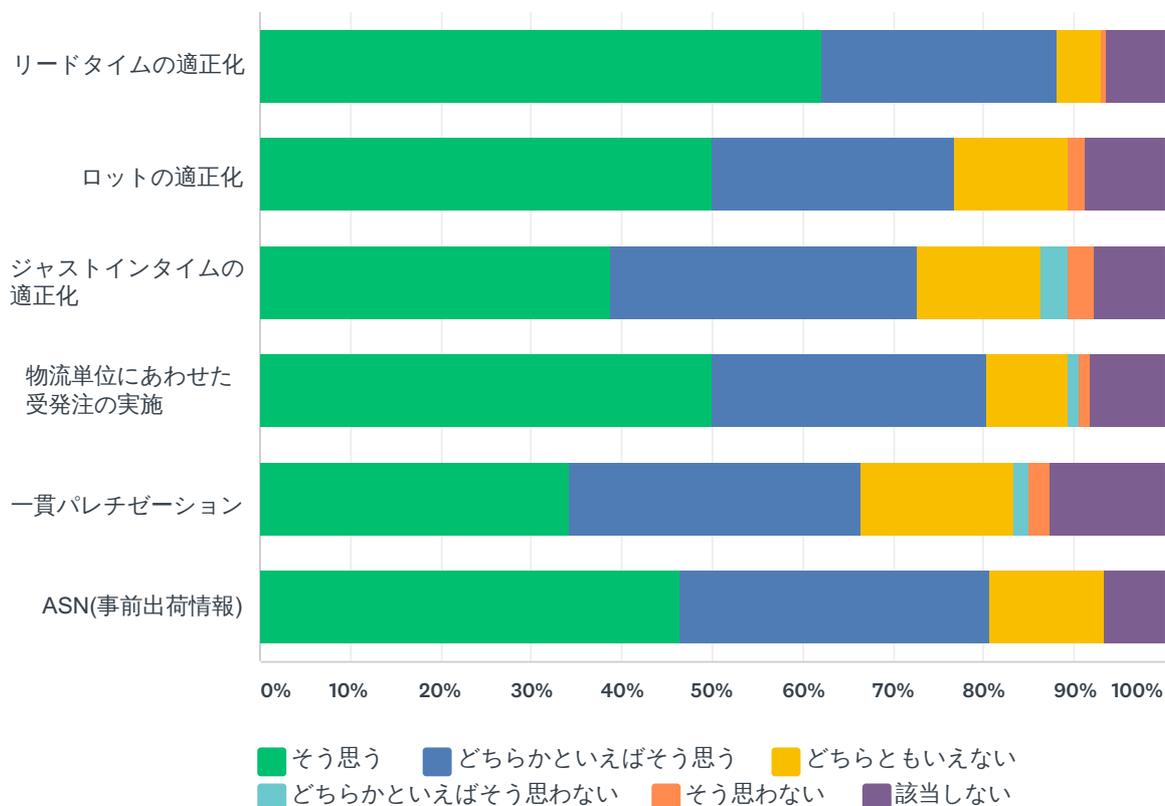
回答数： 169 スキップ数： 46



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計	加重平均
ハードウェアの標準化(パレットサイズなど)	47.31% 79	28.74% 48	11.38% 19	4.19% 7	1.20% 2	7.19% 12	167	2.05
ソフトウェアの標準化(情報システム、伝票など)	47.34% 80	31.36% 53	11.24% 19	3.55% 6	1.18% 2	5.33% 9	169	1.96
ルールの標準化(届け先での業務内容など)	46.43% 78	36.31% 61	9.52% 16	0.60% 1	0.00% 0	7.14% 12	168	1.93
ダイバーシティ施策(女性の活用)	34.91% 59	37.28% 63	17.75% 30	2.96% 5	1.78% 3	5.33% 9	169	2.15
ダイバーシティ施策(高齢者の活用)	32.54% 55	31.95% 54	23.67% 40	2.37% 4	4.14% 7	5.33% 9	169	2.30
ダイバーシティ施策(外国人の活用)	22.02% 37	34.52% 58	24.40% 41	5.95% 10	7.74% 13	5.36% 9	168	2.59
ダイバーシティ施策(障害者の活用)	18.45% 31	27.98% 47	33.93% 57	6.55% 11	7.74% 13	5.36% 9	168	2.73

Q15 あなたの会社の物流を持続的なものにするために、以下の発着荷主間連携の取組が必要になっていると思いますか。

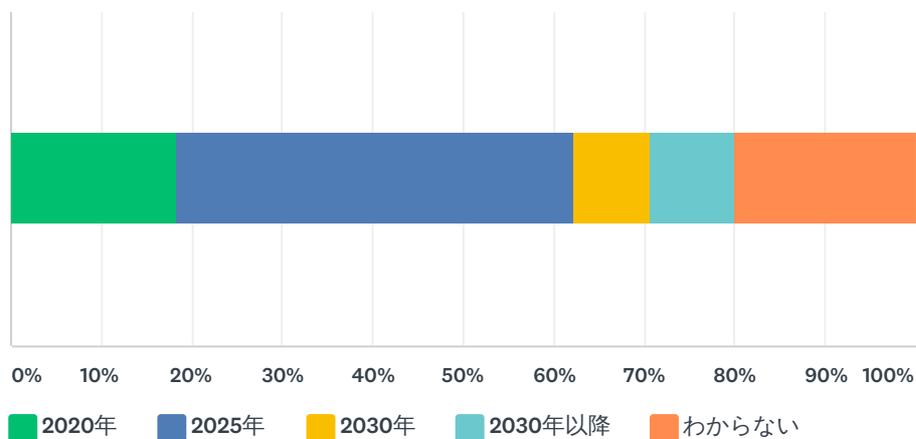
回答数： 169 スキップ数： 46



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	該当しない	合計	加重平均
リードタイムの適正化	62.13% 105	26.04% 44	4.73% 8	0.00% 0	0.59% 1	6.51% 11	169	1.70
ロットの適正化	50.00% 84	26.79% 45	12.50% 21	0.00% 0	1.79% 3	8.93% 15	168	2.04
ジャストインタイムの適正化	38.69% 65	33.93% 57	13.69% 23	2.98% 5	2.98% 5	7.74% 13	168	2.21
物流単位にあわせた受発注の実施	50.00% 84	30.36% 51	8.93% 15	1.19% 2	1.19% 2	8.33% 14	168	1.98
一貫パレチゼーション	34.13% 57	32.34% 54	16.77% 28	1.80% 3	2.40% 4	12.57% 21	167	2.44
ASN(事前出荷情報)	46.39% 77	34.34% 57	12.65% 21	0.00% 0	0.00% 0	6.63% 11	166	1.93

Q16 IoT/BD/AIの活用により、共同輸送等の取組が進み、トラックの積載率が向上しているのはいつ頃だと思いますか。

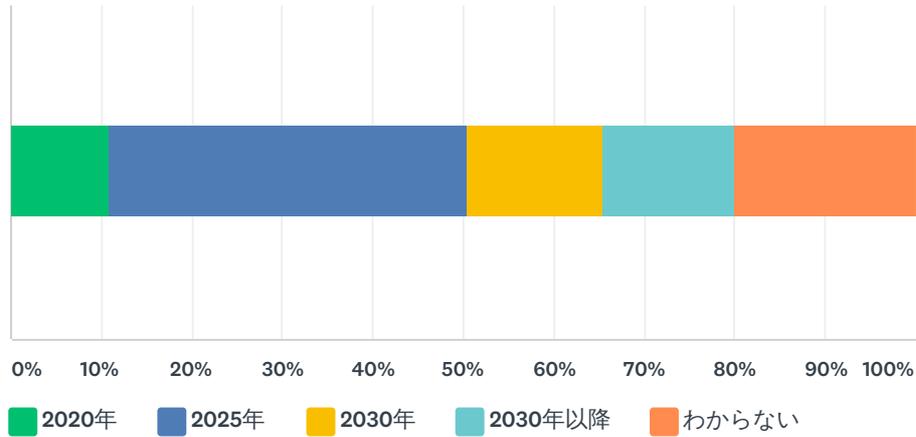
回答数： 164 スキップ数： 51



回答の選択肢	回答数	割合
2020年	30	18.29%
2025年	72	43.90%
2030年	14	8.54%
2030年以降	15	9.15%
わからない	33	20.12%
合計	164	

Q17 IoT／BD／AIの活用により、発着荷主及び物流事業者間の情報共有が進み、荷役待ち時間等の解消が図られ、今よりもトラックの回転数が向上しているのはいつ頃だと思いますか。

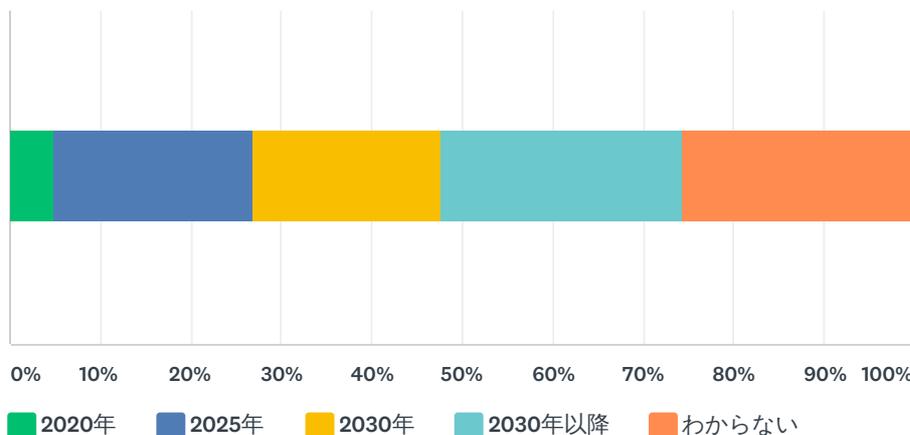
回答数： 165 スキップ数： 50



回答の選択肢	回答数
2020年	18
2025年	65
2030年	25
2030年以降	24
わからない	33
合計	165

Q18 IoT/BD/AIの活用により、位置情報のリアル把握・相互把握、自動運転等が実現し、ドライバー不足の問題が解消しているのはいつ頃だと思えますか。

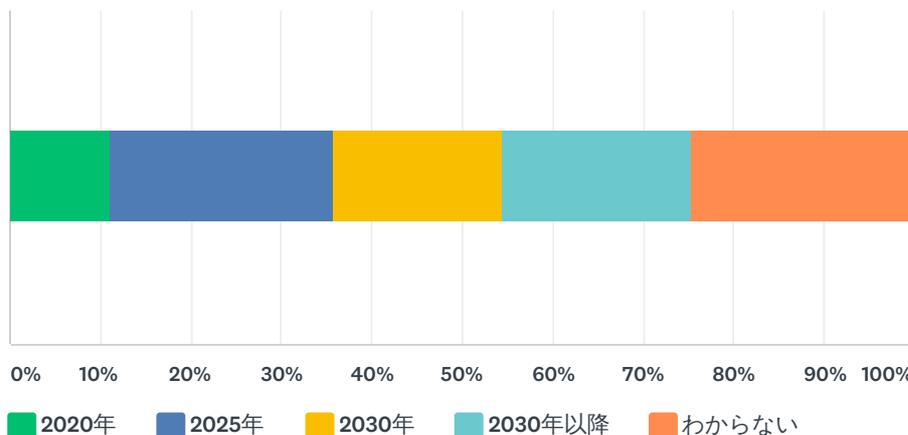
回答数： 164 スキップ数： 51



回答の選択肢	回答数	割合
2020年	8	4.88%
2025年	36	21.95%
2030年	34	20.73%
2030年以降	44	26.83%
わからない	42	25.61%
合計	164	

Q19 IoT/BD/AIの活用により、サプライチェーン上の企業間の情報連携が強化され、今よりも原材料や製品といったモノの在庫が削減されているのはいつ頃だと思いますか。

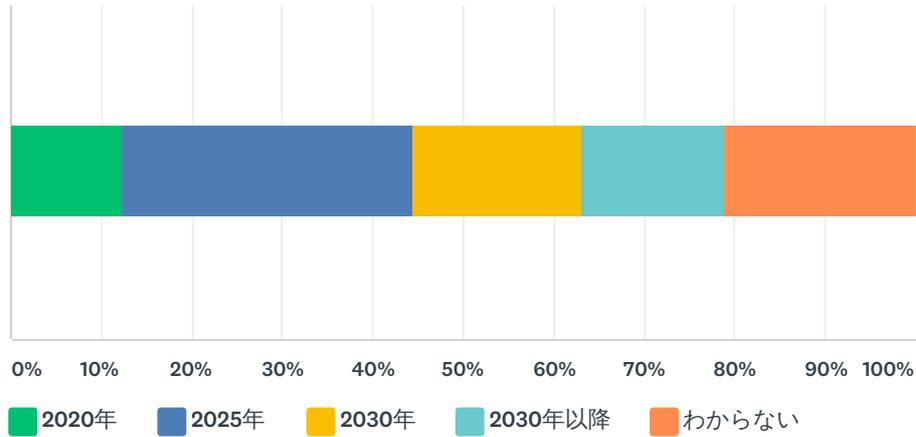
回答数： 162 スキップ数： 53



回答の選択肢	回答数	割合
2020年	18	11.11%
2025年	40	24.69%
2030年	30	18.52%
2030年以降	34	20.99%
わからない	40	24.69%
合計	162	

Q20 IoT/BD/AIの進化に伴う保管設備の機械化により、複数荷主が保管スペースを共有するなどの取組が進展し、今よりも保管効率が向上しているのはいつ頃だと思いますか。

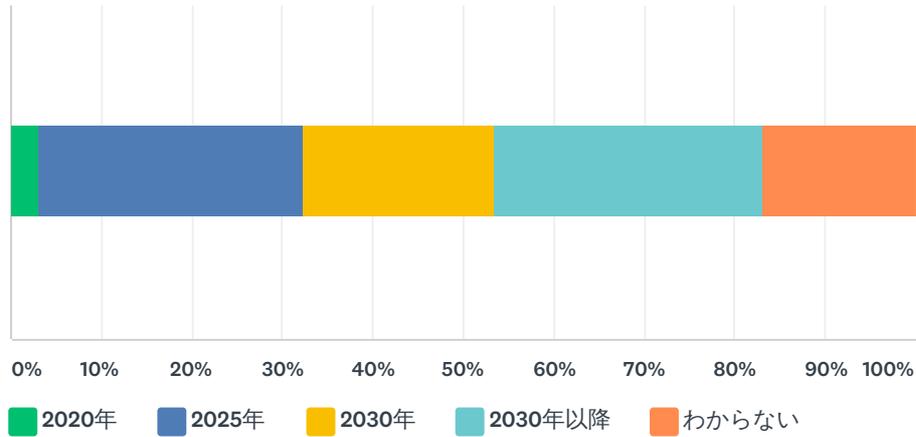
回答数：162 スキップ数：53



回答の選択肢	回答数
2020年	20
2025年	52
2030年	30
2030年以降	26
わからない	34
合計	162

Q21 IoT/BD/AIの活用により、ロボット倉庫などの普及が進み、労働集約型産業とされてきた物流現場において、省人化、無人化が実現しているのはいつ頃だと思いますか。

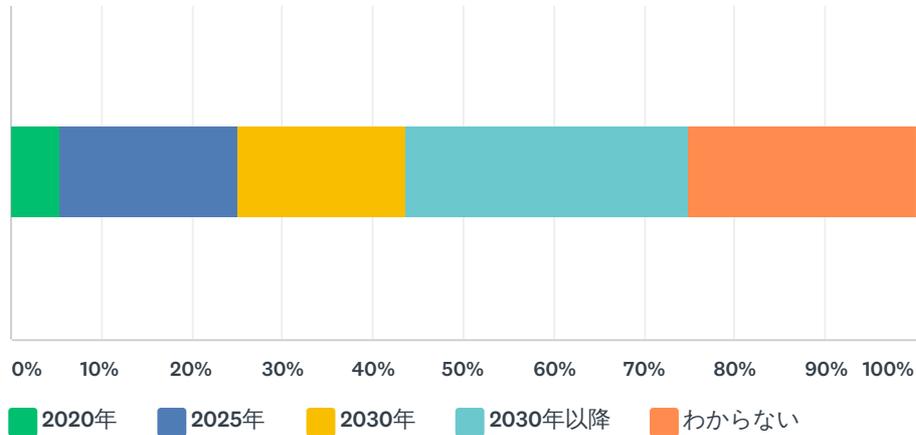
回答数： 161 スキップ数： 54



回答の選択肢	回答数
2020年	3.11% 5
2025年	29.19% 47
2030年	21.12% 34
2030年以降	29.81% 48
わからない	16.77% 27
合計	161

Q22 IoT／BD／AIの活用により、サプライチェーン上の全ての企業において情報の共有が図られ、無駄な生産や入出荷等の作業を減らすことで、飛躍的な生産性の向上を実現しているのはいつ頃だと思いますか。

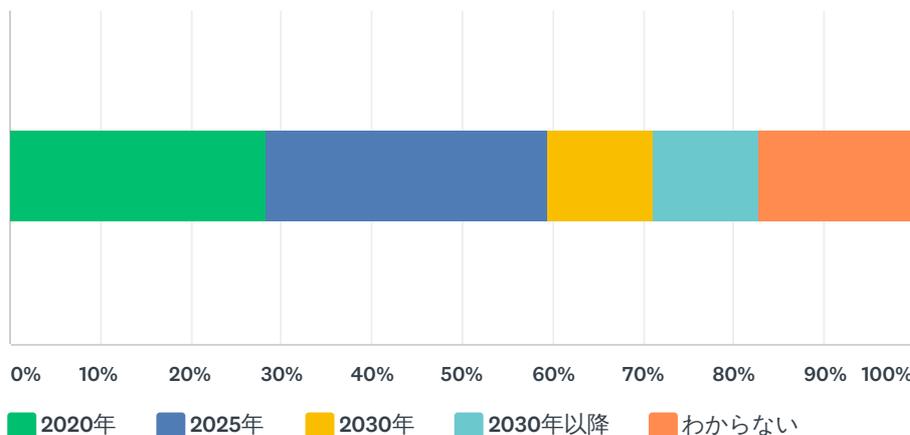
回答数： 163 スキップ数： 52



回答の選択肢	回答数
2020年	9
2025年	32
2030年	30
2030年以降	51
わからない	41
合計	163

Q23 物流・ロジスティクス分野の生産性を向上させるために、物流部門が、IoT/BD/AIを活用した機械化や情報化に対して、投資しているのはいつ頃だと思いますか。

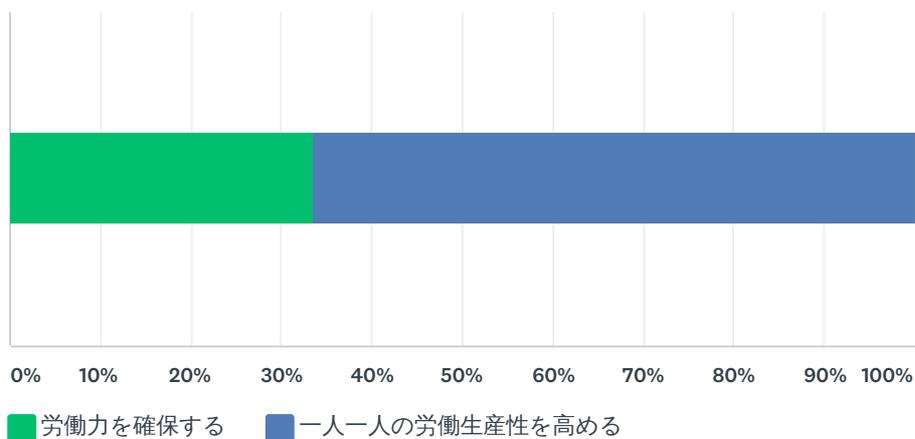
回答数：163 スキップ数：52



回答の選択肢	回答数
2020年	46
2025年	51
2030年	19
2030年以降	19
わからない	28
合計	163

Q24 現在の労働力不足の問題について、次のどちらで対応するべきだと思いますか。次の2つのうちから1つを選んでください。

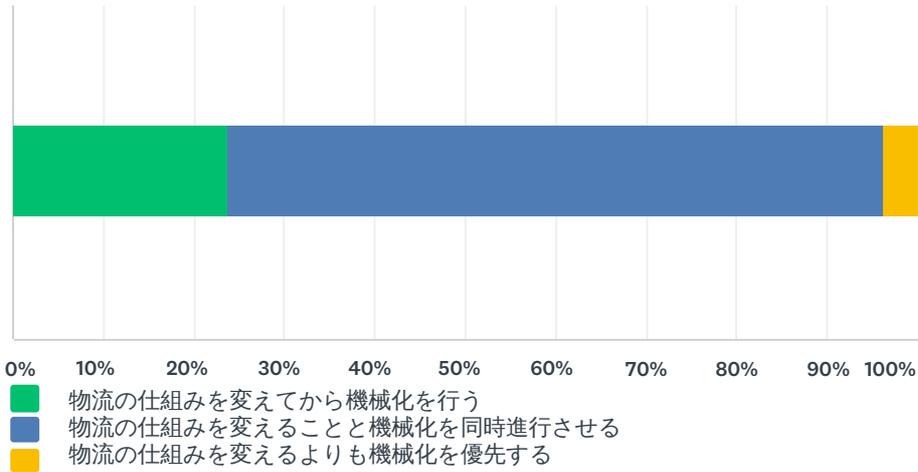
回答数：161 スキップ数：54



回答の選択肢	回答数
労働力を確保する	54
一人一人の労働生産性を高める	107
合計	161

Q25 現在の労働力不足の問題に対応するための順序は、次のどちらで対応するべきだと思いますか。次の3つのうちから1つを選んでください。

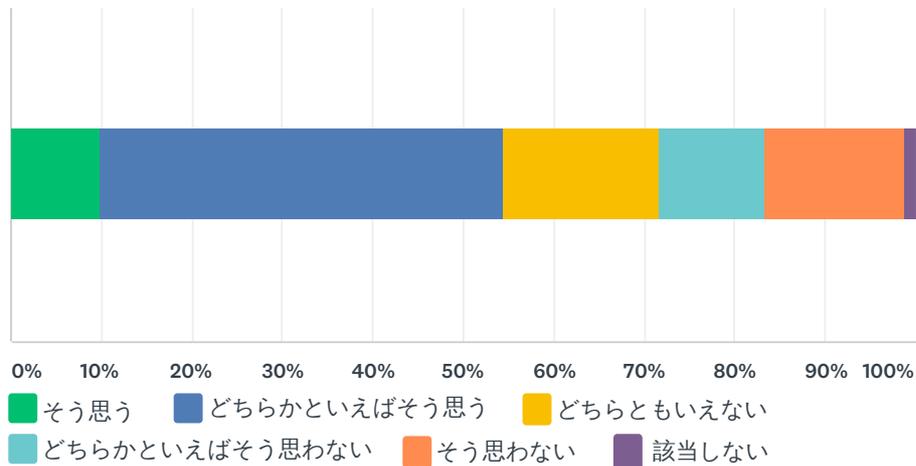
回答数： 161 スキップ数： 54



回答の選択肢	回答数
物流の仕組みを変えてから機械化を行う	38
物流の仕組みを変えることと機械化を同時進行させる	117
物流の仕組みを変えるよりも機械化を優先する	6
合計	161

Q26 国(国土交通省)による「生産性革命プロジェクト」では、「物流生産性革命」を掲げて、トラックの生産性を二割程度向上させる目標を掲げて施策を推進しています。今後、国の施策の推進により、日本の物流全体の生産性の向上につながっていくと思いますか。

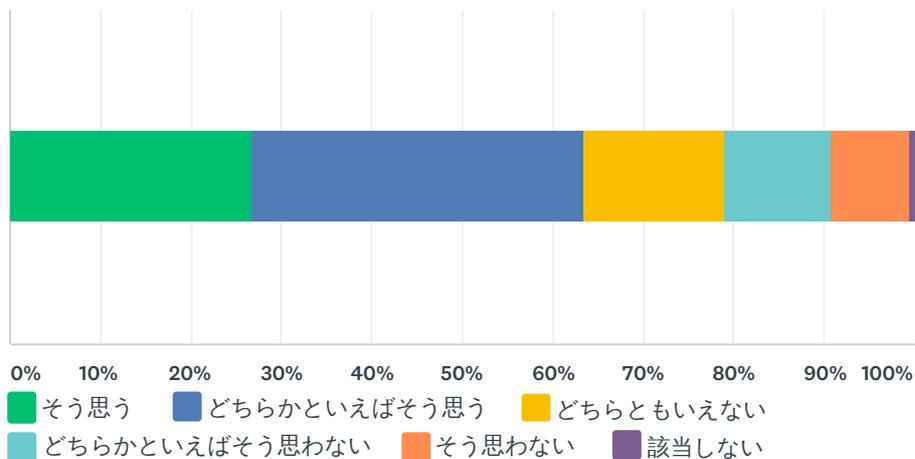
回答数： 162 スキップ数： 53



回答の選択肢	割合	回答数
そう思う	9.88%	16
どちらかといえばそう思う	44.44%	72
どちらともいえない	17.28%	28
どちらかといえばそう思わない	11.73%	19
そう思わない	15.43%	25
該当しない	1.23%	2
合計		162

Q27 今後、標準化の推進やルールづくりなどの物流の仕組みを変えるうえでの環境整備に向けて、行政の施策に期待しますか。

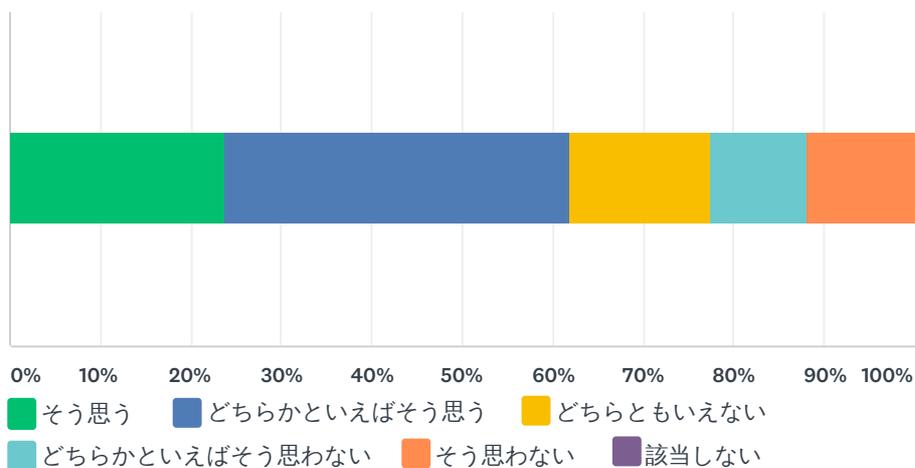
回答数： 161 スキップ数： 54



回答の選択肢	割合	回答数
そう思う	26.71%	43
どちらかといえばそう思う	36.65%	59
どちらともいえない	15.53%	25
どちらかといえばそう思わない	11.80%	19
そう思わない	8.70%	14
該当しない	0.62%	1
合計		161

Q28 今後、物流・ロジスティクス分野の情報化・機械化を推進することに対して、行政の施策に期待しますか。

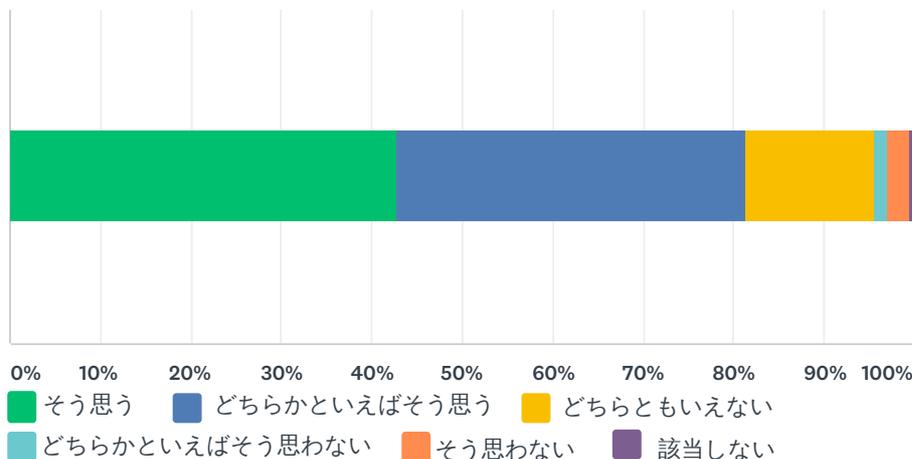
回答数： 160 スキップ数： 55



回答の選択肢	割合	回答数
そう思う	23.75%	38
どちらかといえばそう思う	38.13%	61
どちらともいえない	15.63%	25
どちらかといえばそう思わない	10.63%	17
そう思わない	11.88%	19
該当しない	0.00%	0
合計		160

Q29 JILSでは、ロジスティクスのあるべき姿を実現するための方法として、IoT推進部会を設置するなどの活動を進めています。今後、IoT/BD/AIを活用したロジスティクスを推進するうえで、JILSの取組に期待しますか。

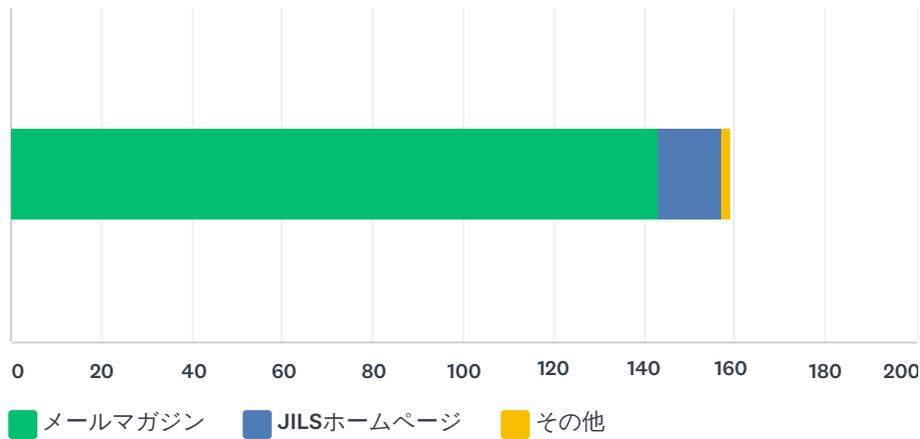
回答数：161 スキップ数：54



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	69	42.86%
どちらかといえばそう思う	62	38.51%
どちらともいえない	23	14.29%
どちらかといえばそう思わない	2	1.24%
そう思わない	4	2.48%
該当しない	1	0.62%
合計	161	

Q30 このWebアンケートについて、何をご覧になられて、ご協力をいただいたのか、次のなかから選択してください(複数回答可)。

回答数： 153 スキップ数： 62



回答の選択肢	回答数
メールマガジン	93.46% 143
JILSホームページ	9.15% 14
その他	1.31% 2
回答数: 153	

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

JILS総合研究所

東京都港区海岸 1 丁目 1 5 番地 1 号 スズエベイディアム 3 階

Tel : 03-3436-3191

Fax : 03-3436-3190

URL <http://www.logistics.or.jp/>